

【hot issue】 ~event report~

## IPD 会合で、アフリカの 開発・経済について議論

スティグリッツ教授主宰の IPD と JICA 研究所が共催する、  
アフリカ・タスクフォース会合に JICA 関係者らが参加

**READ MORE**



恒川所長のスピーチに耳を傾けるスティグリッツ教授（右）

### In this issue :



#### reviews

JICA 研究所と神戸大学との共同研究プロジェクト「アフリカにおける民族多様性と経済的不安定」の活動の一環として、世界的に著名な研究者たちが神戸大学に集結し、イベントを開催

**READ MORE**



#### reviews

アフリカにおける「脆弱国家」支援策を探る武内進一上席研究員が DAC の INCAF 会合に参加

**READ MORE**



#### previews

アジアの平和と発展を考える「ピースサイエンス」シンポジウムが JICA 研究所で開催へ

**READ MORE**

Copyright Japan International Cooperation Agency



JICA 研究所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町 10-5

TEL: 03-3269-2911 [dritpl@jica.go.jp](mailto:dritpl@jica.go.jp)

## スティグリッツ教授主宰のシンクタンクと JICA 研究所 が共同でアフリカ・タスクフォース会合を開催

7月9日から10日までの2日間、南アフリカ共和国の首都プレトリアで、IPD (Initiative for Policy Dialogue) アフリカ・タスクフォース会合が開催されました。本会合はノーベル経済学賞受賞者のジョセフ・スティグリッツ教授(米国コロンビア大学)が創設したIPDとJICA研究所が共催する会合です。

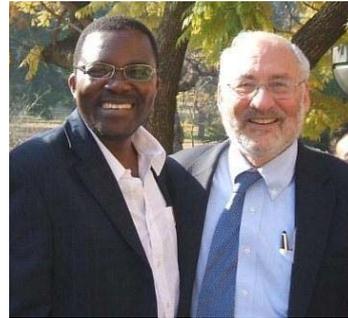
IPDは、地域・国別の課題に対する政策提言を目的としたシンクタンクで、政策立案者と研究者をつなぐ役割を担っています。2006年から毎年行われている[アフリカ・タスクフォース会合](#)では、アフリカにおける開発・経済について政策決定者とともに議論し、提言を行っています。今回の主要テーマは、アフリカ経済における国際金融危機の影響と、土地・農業・気候変動問題でした。

JICA研究所の恒川恵市所長がオープニングスピーチで、JICAのアフリカ事業について話したほか、武内進一上席研究員とジャン・クロード マスワナ研究員が

出席し、それぞれ「ルワンダの紛争と土地所有権」、「世界金融危機と景気後退-アフリカにおけるインパクトと開発の展望-」をテーマに発表。また、斎藤克郎JICA農村開発部次長が「[CARDアフリカ米増産のための同盟イニチアティブ](#)」について発表しました。また、スティグリッツ教授も、恒川所長らとともにさまざまな議論に参加して批評を行いました。

詳細な情報は、JICA研究所のウェブサイトに掲載しています。

[詳しくはこちら](#)



マスワナ研究員(左)とスティグリッツ教授

## 研究プロジェクト「アフリカにおける民族多様性と経済的 不安定」をテーマに研究会とシンポジウムを開催

JICA研究所と神戸大学は共同プロジェクト「アフリカにおける民族多様性と経済的不安定」に関わる第1回研究会を7月13日~14日に、また「多様化する世界とグローバル経済危機」と題したシンポジウムを13日に神戸大学で開催し、JICA研究所からは恒川恵市所長らが出席しました。JICA研究所の日野博之特任研究員(神戸大学特命教授/ケニア共和国首相府経済アドバイザー)と、同大学の高橋基樹教授が研究代表者を務める同共同プロジェクトの初会合であり、研究会では経済学者のほか、社会心理学や人類学、歴史学、政治学といった多様な分野の専門家が、それぞれの視点から見解を述べました。

今後については、来年1月(予定)に行われる米国イェール大学での第2回研究会に続き、ケニア(ナイロビ)、英国オックスフォード大学、さらに研究成果の集大成をプレゼンテーションする2011年の東京での会議へと

つながります。最終的には、研究成果をとりまとめて出版することが計画されています。

詳細な情報は、JICA研究所のウェブサイトに掲載しています。

[詳しくはこちら](#)



神戸大学に集結した研究プロジェクト・メンバー

## 武内上席研究員が OECD-DAC 会合で発表

### 「紛争と脆弱性に関する国際ネットワーク」会合

OECD・DAC（経済開発協力機構開発援助委員会）の International Network on Conflict and Fragility（INCAF：紛争と脆弱性に関する国際ネットワーク）会合が、7月2日～3日にパリの OECD 本部で行われました。同会合には各国代表の委員が出席したほか、JICA 研究所からは武内進一上席研究員が参加。自身が研究代表者を務める「紛争影響国における国家建設」プロジェクトの概要や研究の背景などについて発表しました。

その中で武内上席研究員は、特に治安分野において、中央政府とコミュニティ・レベルのシステムを有機的に連動させるための方策を見出そうとする自らの研究について述べ、欧米型の民主主義とは異なる形の政治的正統性（Legitimacy）に目を向ける必要があると主張しました。これは近年の世界的な研究潮流を踏まえたもので、出席者から賛同を得ました。

また、武内上席研究員が JICA 研究所設立の経緯について説明した際、スペインやドイツ代表の委員から質問を受けるなど、各国の JICA 研究所に対する関心の高さを肌で感じたとのこと。

注1 INCAF・・・2008年12月にDAC内に立ち上げられたタスク・フォースで、政治的正当性の問題や内戦など、過去の深刻な対立の後遺症を抱える「脆弱国家」への支援策について議論し、ドナー国や国際機関による紛争予防から開発に至る包括的な支援のあり方などについて話し合う場となっている。

## 金融・貿易・環境・安全保障など幅広いテーマを論議 アジアの平和と発展を考えるシンポジウム開催へ

アジアの繁栄と平和のための制度構築をテーマとする会合が、JICA 研究所と APSN（Asian Peace Science Network）、経済産業研究所（RIETI）の共催で、8月28日～29日に JICA 研究所国際会議場で開催されます。

会議では、アジア地域の平和と発展のため地域の制度がどのように構築されるべきかについて、研究者や政策立案者、実務家らが集い活発な議論を行います。

初日は「平和と発展に向けたアジアの制度構築-グローバル危機を乗り越えて-」と題したシンポジウムを開催し、基調講演やパネルディスカッションが行われます。2日目はクローズのワークショップとして、「世

界的経済危機と東アジアの平和と発展のための制度構築」をテーマに、6つのパネルディスカッションが行われます。APSN の提唱者であり、コーネル大学名誉教授のウォルター・アイザード氏をはじめ、恒川恵市 JICA 研究所所長、藤田昌久 RIETI 所長、そのほか著名な研究者や JICA 関係者らが参加します。

2日間を通じた本会合の狙いは、アジアにおける平和と開発を促進するためにどのような制度が構築されるべきかを議論することです。具体的には、財政・金融システムの安定化、自由貿易と投資、環境問題とエネルギー資源問題、制度能力強化、安全保障の問題について話し合われる予定です。